

画論33rd The Best Image参加報告

公益社団法人 日本海員掖済会 小樽掖済会病院 小林穂乃香

この度、2025年12月14日(日)に行われたCanon主催の「画論The Best Image」に初めて参加してきましたので、報告いたします。

当院の技師室には過去に画論で取られた賞の景品がいくつか置かれており、「いずれ自分も挑戦することになるのかな」と新入職員の頃からうっすら感じておりました。そんな折りに今回応募した症例に遭遇し、上司からの勧めもあって挑戦することとなりました。発表タイトルは「高精細CTにて憩室内伸展を観察し得た側方発育型大腸腫瘍」で、内視鏡では観察出来ない大腸憩室の内部を大腸CT検査(CTC)で得られる3D画像を用いることで観察できた症例です。CT装置のTrimming機能を使う事でPrecisionの強みである高精細画像を大腸内腔解析においても活かすことができました。その結果、1cmにも満たない憩室内部に伸展する長径6mm×高さ1mmの病変を明瞭に捉えることができました。憩室内に病変が伸展していると内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の難易度が飛躍的に高くなるため、術前に把握することは治療計画の立案に非常に重要です。近年は食の欧米化と高齢化社会の影響で憩室保有者も増えているため、ESD術前にはぜひCTCを撮影して憩室内伸展の有無を確認してみてください。初挑戦のためとても緊張しましたが、幸いなことにも上位入賞でき、東京でのディスカッションに参加することができました。施設としては2年ぶりです。

無事に発表が終わり安堵したのもつかの間、北海道は大荒れの天気で飛行機の欠航が相次いでいるという知らせを受け、「帰られないかも…」という違う危機感に襲われました。翌日の待機を受け持ち、家で飼い猫を待たせている身としては必ず北海道に帰るという使命の元、CT国内導入50周年という節目に向けた特別講演を拝聴し、後ろ髪引かれながら会場を後にしました。空港への道中にオンライン配信でテクニカル賞を受賞できたことを知り、モノレールの中で喜びあったのも良い思い出となりました。次こそは表彰式と懇親会に参加できるよう、また上位入賞できるように一層励んで参ります。(結局、欠航の波にのまれ無念の空港泊となりましたが、Canonの北海道チームの皆様方の手厚いサポートのおかげで何とか北海道まで帰ることができました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。)

医師と二人三脚で発表することは初めての経験でどのようにまとめるか、分量はどうかとても苦慮しました。医師と一緒に現地参加することでどの技術を組み込めるかという話し合いができ、今後の発表に繋がる足掛かりをたくさん得られました。各施設の発表はどれもアイデアや工夫が詰まっており、自施設で試してみようと思うテクニックが満載でした。とても有意義な時間を過ごせましたので、ぜひみなさんオンデマンド配信や冊子に目を通して下さい。

